

非常勤の待遇は若干変化してきましたが、年々窮屈になり、科目、職種により差別的現象が生じてきているように感じます。いろいろな声を聞いてください。そして、あなたの声をお聞かせください。

始まったテスト関連 付随業務支給、大変！

～現実合わない、勤務の負担感、複雑すぎ等々、悲鳴続出～

「学校で問題作れ、学校で採点しろと言われても、次の学校の授業に移動しなければ…」、「通信制は対象外というけれど、レポート採点で手一杯だけれどテスト作ってるんですよ…」、「試験日は特別時間割、授業時間外って、どう書けば良いの?」、「事務の方、大変です…」……。

「非常勤講師にも病休をください!」

～「無給休暇届」、「欠勤簿」はありますが…～

この春休みにコロナの大量発生した学校があったり、原因不明ですが体調を崩す先生もいました。年度の前半は年休が無い、あっても1日という非常勤が多く、ナント病休制度が非常勤にはありませんから、「欠勤」せざるを得ません。1日1万円前後が飛んでしまうという実損を被った先生方が何人も出ています。非常勤も人間です。年休がもっとあれば良いのですが、せめて病休が必要です。

非常勤も地公臨も足りません!

～学校運営、教育体制は、もはや国(文科省)レベルの問題～

全国でも群馬県内でも組合の会議で先生が足りない報告が次々と上がっています。どうも少子化、定員割れも影響し、学校間格差が生じているようです。生徒数が少なくなっても職員が余るわけではありません。指導上の困難が生じてもっと教員が必要なのに一人二役・三役せねばならず、先生方が疲弊し病休に入っても、今度は地公臨はもちろん、非常勤も見つからず、さらに現場は大変なことになっています。

非常勤講師は基本、持ち帰り仕事です!

～非常勤はもはや良心だけで働くのは限界かも～

非常勤の先生方は、自主的活動が活発な芸術科の先生や採用試験に臨む若手の先生、そして、多いのが生活と生きがいのために余力で頑張っている高齢の先生たち、他にも様々です。「非常勤頼まれたんだけどこれ以上無理だね」、「計画訪問時の研究授業の要請受けたんですけど、非常勤ってあり得るんですか?」、「定期試験もそうだけれど、追認試験の指導や作問、採点ってボランティア?」、…。いろんな声が聞こえてきます。

夏季要請行動にむけてアンケートをお願いします!

文科省や県教委に声を上げるしかありません。賃金・待遇改善を正式に交渉できるのは高教組だけです。8月の要請行動に向け、多くの先生方の声をいただき、状況を動かします。ぜひご協力ください。

あなたの一言を高教組は大切にしています
みなさんの多様な要望に対して、組合は少数意見でも人権、労働権の観点からその妥当性、正当性を検討し、要求項目を絞り込んで、県教委に要請を行っています。さりげない一言、お待ちしています。

